発行責任者：北澤潤子
〒 144-0052　東京都大田区蒲田 4-42-3
イースタンコーポ蒲田 302
TEL：03-6424-7561　FAX:03-6424-7562
E-mail　oota@seikatsusha.net
大田・生活者ネットワークホームページ
http://oota.seikatsusha.me

市民が育てる 東京・未来

大田・生活者ネットワーク 区議会レポート

きたざわ潤子

きたざわ・じゅんこ

子どもたちの未来のために今、大切なこと

http://kitazawa.seikatsusha.me

●大田・生活者ネットワークきたざわ潤子の活動を紹介します。

ブラック企業の廃絶を！

人間らしい働き方を求めて

ブラック企業など、過酷な労働環境で疲弊する若者が増えています。低賃金・長時間労働で過労死に至った事例では、求人情報には初任給約 20 万円とあったのに、80 時間の残業代を前もって含めた「固定残業代」というからくりがあったといいます。また大量採用し「使えるものだけを残して」大量解雇をする、解雇にあたっては、パワハラで人格的に破壊し、「自己都合退職」に追い込む、という戦略的・組織的な労務管理の実態もあるといいます（参考：『ブラック企業』今野春貴・文芸春秋）。

多くの若者が、過酷な労働環境から精神疾患・過労死・自殺などに追い込まれていることは、人権問題であるとともに、社会にとっても大きな損失です。現在の自由経済、利益優先・効率重視の価値観のなかで、将来ある若者の可能性がトータルに評価されない状況があることに対して、企業の責任を問い、社会全体での監視や若者への支援体制をつくることが必要です。

大田区には、若者対象の相談窓口や就労サポートセンターはなく、若者が気軽に集まれる居場所もほとんどありません。早く適切な対応をするためにも、ワンストップの相談窓口、医療機関をはじめとする各機関との連携、また学校教育のなかで「労働者の権利」を学ぶ機会を持つなど、社会の健全化に向けての体制を整えるべきです。

もうひとつの新しい働き方 ワーカーズ・コレクティブ

今、地域生活に必要なモノやサービスを事業化して解決をすすめるコミュニティビジネス、ソーシャルビジネス（社会的企業）の有効性に期待が集まっています。

「働く人の協同組合：ワーカーズ・コレクティブ（ワーカーズ・コープ）」には、30 年前から介護・子育て・配食サービス・環境に配慮した清掃・移動サービス・居場所づくりなど、社会課題解決のための実践がありますが、「法人格」がないために、まだあまり知られていません。特徴は、《事業に参加するメンバーが主体的に取り組む》《直接民主主義の組織運営》《一人 1 票制のもと出資・労働・経営をおこなう協同組合の形をとる》こと。ブラック企業や非正規雇用といった労働形態が問題化するなか、一人ひとりの違いを認め合い個人の尊厳をまもる人間らしい働き方があたりまえの働く場をめざしています。

今年は生活困窮者自立支援法、子ども子育て支援新制度、子どもの貧困対策法、介護保険制度の改定と、地方自治の力が問われる時代です。あらゆる人が包摂される豊かな地域にするために、非営利市民事業で地域から課題解決を進める「ワーカーズ・コレクティブ」への大きな支援を求めていきます。

きたざわ潤子プロフィール
（きたざわ・じゅんこ）

■高知県生まれ■東洋英和女学院短期大学保育課卒業■日本女子大学通信教育課程家政学部児童学科卒業■幼稚園 16 年間勤務 (めぐみ幼稚園・こひつじ幼稚園他) ■大田区議会議員 (2011 ～) ■現在：こども・文教委員会、羽田空港対策特別委員会■大田区池上 2 丁目在住

▲上遠恵子さん（左）の講演会で（ECF 大森）。2014 年 12 月 5 日

報告

爆笑！新春！ 松元ヒロ・ソロライブ
―「今」を切り取る―
文化の森ホール 1 月 17 日

終始爆笑の 90 分でしたが、「憲法くん」という、憲法になりきっての演技は圧巻でした。笑う中に、主権在民や平和の意義、そしてなぜ、安倍政権は憲法を変えようとしているのか、いったい変える必要があるのか。しっかり考えることを一人ひとりに問いかけてくる、迫力と学びのライブでした。

大田・生活者ネットワーク
区議会議員
きたざわ潤子

市民の力で地域防災力アップ

阪神淡路大震災から 20 年、東日本大震災から 4 年、神戸の復興まちづくりの様子や被災した若者の語り部を取り上げる放送が流れました。当時、神戸の新長田では行政主導の「災害に強いまちづくり」の復興計画が住民の反対の中で進められました。奇跡の復興と評されていたまちは 20 年たった今、シャッター通りと化した巨大ショッピングセンターと、崩壊したコミュニティに生活再建の希望を失った住民の姿が映し出されていました。当時の行政責任者の「住民との話し合いが必要だった」という一言が重くのしかかってきます。

“被災後”ではなく“今”！“行政主導”ではなく“市民参加”で災害に強いまちをつくる

語り部を続ける被災した若者やボランティアで被災地に入った彼らは、自分たちの未来に巨大災害が避けて通れないことを真剣に受け止めています。未曾有の災害に立ち向かわなければならない彼らに、私たちは災害に立ち向かうまちづくりのしくみを残しているでしょうか。行政主導のまちづくりのあり方を見直す勇気を、神戸の復興まちづくりが私たちに問いかけているのではないでしょうか。

巨大地震が想定される現在、災害は止められなくとも、被害を最小限に止め、速やかな復興を実現させる努力は必要です。個人の対策はもちろん、地域の防災力を高めるためにも、コミュニティの中でハード面ソフト面から地域の弱点をチェックし、確認しあい、改善に向けて知恵を出し合う市民主体のまちづくりが必要です。自分たちのまちのビジョン・未来像を描き災害に強いまちづくりに近づけることも、被災しても生活再建のために地域コミュニティを守り復興に立ち向かうことも、地震大国日本に住む私たちの責務であり、避けて通れない道なのです。

訪問記　「のざわテットーひろば」
ー子どもの外遊びを豊かに！

▼自分の責任で自由に遊ぶ「のざわテットーひろば」（世田谷区）にて。1 月 24 日

世田谷区野沢にあるこの広場は、乳幼児を中心とした遊び場、プレーパークです。週に 5 日の開園、だれでも無料で利用できます。常駐しているプレーリーダーが親子を見守り、様々な活動のコーディネーター役を担っています。

どろんこ遊びが存分にできる土の広場。ツリーハウスやパパたち手作りの小さなままごと用の家、ピザの焼けるかまど、周りには、柿、びわ、いちじく、しいの木（どんぐり）と実のなる木がいっぱい。広場の真ん中の家では、外をながめながら、授乳やお昼寝や室内遊びもできます。

プレーパークのモットーは、「自分の責任で自由に遊ぶ」です。禁止事項が少なく、子どもたちの「やってみたい」を実現でき、のびのびと遊べる広場です。「けんかもしょっちゅう。うまくいかないことを子どもたちはたくさん経験します」とプレーリーダー。あるお母さんは「ここでは、だれの子どもでも悪いことをしたら注意するし、みんなで子育てしているようで、とてもリラックスできます」。子どもが生き生きと遊び、親同士、見守りあう関係性があることは、子育てのしやすさにつながるようです。

月に一度は、子育て支援講座。その他、親子で楽しめるイベントも開催。地域住民で構成する NPO 法人「野沢 3 丁目遊び場づくりの会」が日々の運営に携わっており、子どもたちは、地域の様々な年代の人に見守られながら、育っていきます。

大田区では、水遊びや泥んこ遊びができる公園はあるでしょうか。ボール遊び禁止の公園ばかりで、思いっきり走れたり、木登りできたりする公園もほとんどありません。子どもの冒険心や挑戦する力は、「やってみる」ことから始まり、痛い思いもしながら、達成感と自信を身につけていきます。生きる力を育てるなら、幼児期からの外遊びの環境を豊かにしていく必要があります。また“住民主体の子育て支援”をバックアップする体制づくり、公園をはじめとする公共施設をつくる際の、子育て世帯からの意見収集をもっと行うべきです。

●大田・生活者ネットワークきたざわ潤子にご意見をお寄せください。

生活者ネット 3つのルール

議員は交代制（ローテーション）

生活者ネットワークの議員は、最長でも 3 期 12 年で交代します。議員を職業化・特権化せず、世代交代を進めることで参加の層を広げます。任期を終えた議員は、市民政治を広げるための活動や地域活動などに、その経験を活かします。

議員報酬は市民の政治活動資金に

生活者ネットワークの活動はカンパで支えられています。議員報酬は市民の政治活動資金に活かします。お金の流れは公開し、政治資金の透明化をはかっています。

選挙はカンパとボランティアで

選挙は、政治に参加する入り口です。みんなでお金（カンパ）と知恵や労力（ボランティア）を出し合い、選挙を行います。

●生活者ネットワークは、56 人の女性議員をもつ地域政党です。安心・共生・自治のまち東京をつくるために、都政、市・区政の場で発言を続けます